四季の営農
ワンポイント
アドバイス
【園芸指導】

雪害を軽減させるための支柱設置方法

【指導員】　果樹課　大和屋　尚享

りんごの開心形樹形等では、主枝や亜主枝に支柱を入れることで雪害が軽減することは明らかで、これまでの大雪でも木柱と枝受け支柱を上手に使った園地では被害が軽減されています。一方、適切に設置されていない園地では被害が発生しています。

9月に入るとりんごの肥大で下垂した枝に支柱を入れる作業を行います。

そこで今回は、雪害の軽減も想定しながら、適切な支柱の設置方法と既設置支柱の見直しを紹介します。

○永久支柱としての木柱設置のポイント

木柱は重く、設置する高さによっては自分で加工しなければならないこともありますが、強度は抜群です。設置の際は、次の点に気をつけましょう。

①SSの走行を邪魔しない様に設置（SSの蛇行による散布むら防止）

②支柱が安定しやすい部分に入れる（主枝が地面と平行な部分）

③支柱は鉛直に入れる（支柱の最大強度）

④地中に石盤や平たい石などを入れる（支柱埋没防止）**（写真1）**

⑤主枝と支柱を必ず固定する（かすがいの使用は避ける）**（写真2）**

【写真1】
木柱の下に埋設する石盤
　主枝と雪の荷重は想像以上。石盤を設置しないと支柱が20～30㎝も埋没し、枝折れにつながる可能性がある。

【写真2】
主枝と木柱をハウスバンド結束
　主枝と接する木柱の先端部はV字にカットして設置し、木柱にドリルで穴をあけハウスバンドで結束する。これをやらないと木柱が外れ、結果、枝折れにつながる可能性あり。ハウスバンドは枝の肥大に合わせてゆるめる。

○枝受け支柱設置のポイント

雪に対する耐荷重は木柱より劣りますが、軽いことや長さのバリエーションが多く扱いやすいため、多くの方が設置しています。果実の重みで下がった枝を上げるために設置し、そのまま冬を越す場合もあると思いますが、雪害軽減を目的にするためには、特に次の点に気をつけましょう。

①支柱は鉛直に入れる（支柱の最大強度）

②既に設置している支柱は収穫後に見直しする（収穫後に枝が上がるため）

③枝受けの部分をハウスバンドで固定すれば外れ防止になる。

雪害軽減には①が重要ですが、現地では多くの場合、斜めに設置されています（写真3）。斜めでは支柱の最大強度を発揮できず、支柱自体が折れてしまい、支えが無くなり枝も折れてしまう可能性が高まります。

【写真3】
　枝の吊り上げの場合はOKだが、雪の重みに耐えられず、支柱自体が折れる可能性あり。

　支柱の最大強度を発揮するため、鉛直に設置する。

りんご部会では今後、雪害軽減を目的とした上手な支柱設置方法講習会を予定しています。日程が決まり次第、部会員へお知らせします。